

＜目的＞ 近年女性をめぐる環境の変化や性別人口のアンバランスによって男性の結婚難が生じている。したがって、男性の結婚に対する関心が高まり、積極的に対応する傾向が見られるが、その方法の1つとして、人間関係の媒介のための衣服や態度が気配りされ、自己表現の手段として重視されている。本研究では、男性の衣生活の意識や態度と、個人特性や生活条件、結婚観、家庭像、結婚式との関連についてアンケート調査を行い、男性の結婚に対する意識や態度と、ファッション意識について考察することを目的とした。未婚者、既婚者（結婚後3年までのグループ）についても比較、検討した。

＜方法＞ 調査は、近畿地区に在住する20～30歳の未婚の男性170名、既婚の男性（結婚3年まで）117名、計287名を対象として、1991年8～10月に配布留置法により行った。主な調査項目は個人特性、結婚の意識と態度、結婚の実際、披露宴の衣裳のイメージ、ファッション意識・態度である。分析は、単純集計、クロス集計、因子分析、クラスター分析を行い、結婚に対する意識とファッション意識との関連を検討した。なお、未婚者と既婚者についても別に比較を行った。

＜結果＞ 未婚者は平均年齢26歳、理想の結婚式は形にこだわらない式である。服装の情報源はファッション雑誌で、服装の対人意識の対象は、異性の友人である。既婚者は平均年齢は28歳で、結婚式を挙げた場所はホテルや式場で人並みの式である。服装の情報源はデパート専門店の陳列商品で、服装の対人意識の対象は主として妻である。未・既婚者のグループ間のカイ二乗値による検定では、個人特性、理想の結婚の有意性が多く、ファッション意識では有意差はみとめられなかった。